

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194300026		
法人名	株式会社はなしのぶ		
事業所名	グループホームはなしのぶ (1号館)		
所在地	釧路郡釧路町別保9丁目28番地		
自己評価作成日	平成29年10月11日	評価結果市町村受理日	平成29年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた環境の中で日々皆さんのんびりと過ごすことができる雰囲気作りを心がけ安全、安心を念頭に職員一同取り組んでおります。

地域との関わりも大切に町内会のイベント参加やボランティアの受け入れを行いながら楽しみある生活作りや心身機能を安定化を図っています

又、「地域食堂」を定期的におこない地域住民の皆様、一人暮らしの高齢者の方々に足を運んでいただき地域住民の皆様が集まり交流する事ができる場を設けております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigvosyoCd=0194300026-008

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成29年11月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	● 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	● 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	● 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	● 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	● 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	● 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	● 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	● 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	● 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	● 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	● 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	● 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	● 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の皆様に対しての関わりなどを通じ地域イベントへのお誘いをいただきながら日々楽しく生活できるよう入居者様に対しケアにあたっている。又、ミーティングの際には理念の実践について再確認しサービスの提供に日々取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会へ加入し地域行事への参加も積極的におこなうことで入居者様のことを知っていただき地域から施設へのサポートも受けている。小中学校の職場体験等の場としても開放している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域食堂への招待をおこないながら入居者様の状態、認知症に対する理解を深めていただけるよう実践している。又、ボランティアの方の受け入れをおこないグループホームの理解を深める機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通し地域住民や行政、家族様からの意見聞き取り日々のケアに活かしている。又、運営推進会議の内容に関してはミーティングを通し報告することで職員全体へ周知し共有するよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に市町村窓口へ訪問しグループホームの情報共有、相談、指導含め協力いただいている。メールや電話等で入居に対する相談、研修案内や感染症等に対する通知提供がある。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング内や外部研修参加により身体拘束における知識を深め介助方法等の話し合い場を持ち周知徹底を図っている。又、困難事例に関しては早急に話し合う場を設け支援方法の検討を行い実行している。その旨を家族様へも報告し理解を深めていただいている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修の実施や外部研修へ参加することで理解を深めている。又、研修参加した職員に関しては報告会を開き情報を共有できる場も設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	町民後見人養成講座体験学習の受け入れを行っている。又、釧路町主催の成年後見制度についての勉強会へも参加し学ぶ機会をもっている。入居者様に対し今後必要と断定できる方についての見極めも視野に取り組んでいくよう心掛ける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時における内容の説明、又、その都度家族様より疑問事項等があった際には早急に対応できる環境作りに取り組んでいる。又、相談窓口を設置することにより相談先を明確化するよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族様が施設へ訪問された際に施設側に対しての要望等がないか日々傾聴している。又、要望があった際には早急に職員へ周知し反映、改善するよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や定期的にミーティングを開き聞き取りの場を設けている。又、施設長室のドアを開放し職員が入室しやすい環境作りに努め意見、要望等を聞き取ることができ場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各ユニット責任者のデスクを同じ部屋に配置する事で常に職員に対する日々の仕事に対する努力や向き合い方等を共有することで労働時間、給与水準		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を掲示し外部研修に参加することでスキルアップにつなげている。又、研修参加した職員についてはミーティング時、報告会を開き情報を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	道東ブロックのグループホーム協議会へ入会をおこない研修、交流会の中でサービスの質を向上させるよう努めている。他、管理者等の来訪時に交流を含め情報共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に伴い初回面談を通しご本人のご要望や家族様からの希望、困っていることなど十分に聞かせていただき支援の方向性を定め安心して入所できるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様からの要望、不安部分に耳を傾け安心して施設入所が実施できるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族からの聞き取り調査後ミーティングにてその方が今現在求めていることを制定し対応できるよう取り組んでいる。又、必要な関係機関との情報共有にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の知恵をいただきながら洗濯作業、調理等日々の生活で必要とされている作業と一緒にこないそれぞれの役割を見出しケアにつなげている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の生活を支える事の重要性を伝え家族との信頼関係のもと、ケアの方向性を随時相談し支えていく関係を築いている。又、毎月写真付きの通信を個々に作成、状況報告含めおこない安心感をもっていただけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人の面会時にはプライベートな場所をつくっている。又、できるだけ周辺環境を変えぬよう食事の際の席や普段の生活スタイルを変えないよう配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格、感情の変化を理解し、気の合う方と楽しんで交流ができるよう雰囲気作りに努めている。又、レクリエーション等を通じて入居者同士の関わりが持ちやすい環境作りに配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族様にその後の様子を伺ったり、入院先へ面会に行ったり、家族様がホームに寄ってくださったり築いてきた関係を大切にいつでも相談を受ける体制である事を説明している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より個々の思いや意向を聞き取り少しでも思いに沿えるように努めプラン作成時におけるモニタリングを通しご本人、ご家族の意向を尊重し検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時における聞き取り調査の中で生活歴などを家族様や利用していた施設関係者から聞き取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本情報や日々の経過記録、個人チェック表をミーティング等必要に応じ情報を職員で共有し個々の状態を把握したうえで変化に応じ対応をおこなっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングにおいてスタッフからの意見や入居者様の状況を話し合い介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個別介護記録を記入すると共にその情報を申し送りでおこない職員同士共有している。又、その情報をミーティング内で報告しプラン作成に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様の状況、日々生まれるニーズに早急に対応しケア対応や受診対応等柔軟に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアの来訪があり保育園、小学校、中学校にも出かけ町内会の盆踊り、敬老会等へも積極的に参加し必要に応じて地域住民の方にご協力をいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療や外来での受診を通し夜間帯に対する対応等も含め実施している。又、その都度情報共有に努め迅速な対応に努めている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を月2回各フロアに入っていただくよう依頼し身体状況、体調部分含めその都度相談し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退中はこまめな面会をおこないその都度病棟看護師、相談室の方から状況を聞き取りし職員、家族様に状況を伝え退院時における対応策を検討している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に事業所として出来ることの説明をさせていただきケアプラン作成やアセスメントの際、入居者様の心身状況に変化が生じた時などに家族様に終末期の確認をおこなっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や体調急変時の対応方法に関してはマニュアルを用意し職員に対する対応方法の周知徹底を図っている。又、定期的に対応手順方法も再確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各種防災マニュアル内にて対応方法の制定、訓練をおこなう際に地域の方にも参加いただきながら施設内の把握、入居者様の身体状況把握をしていただくことで迅速な対応を実施できるよう取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々にあった声掛けやプライバシー確保、人格の尊重に努め声掛け、傾聴、受容を常に念頭に置きながらケアにあたっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の好み、希望を聞き出しや本人からの要望を聞き、表現のできない方からは、しぐさ等からくみ取り本人の希望に出来るだけ沿えるよう早急に対応し自己決定の支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位に合わせるのではなく入居者様一人一人にあった生活リズムや希望を優先しケアにあたっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容室の方によるカットや化粧を行う習慣、服装などへも配慮しおしゃれを楽しむことができる場面を設けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理作業を入居者様と一緒にこなえる場面作りや好みの物を聞き取りながらメニューに反映したりと食事面に対するの楽しさを知って知っていただける取り組みをおこなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取、水分摂取量の記録をおこない日々目安を達成できるよう取り組んでいる。又、スポーツ飲料、ゼリー等も取り入れながら実施。その方の状況に応じた食事提供を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に口腔ケアをおこない介助が必要な方に対するの支援、必要に応じ協力歯科医院を利用しながら取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し個々の排泄パターンの把握に努めできるだけトイレで排泄がおこなえるよう取り組んでいる。又、リハビリパンツやパット等その方の状況に合わせた物を検討し使用していただいている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の把握をおこない運動機会の確保、食事形態の工夫や起床時の牛乳等個々にあったものを提供するよう心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 ご本人の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の意思、体調部分に十分配慮し個々のペースに合わせゆっくりと入浴を楽しんでいただけるよう入浴剤を使用したりリラックスしていただける取り組みを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの自由を尊重し自力困難な方にはご希望に合わせて自室や共有スペース等へ誘導し休んでいただいている。夜間帯には良眠できるような湿度、温度に十分注意し寝具については定期的に交換をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬一覧表や処方箋等を通し薬の作用や副作用を把握している。又、内服時の介助、見守りを徹底し誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味、趣向をこらしたレクリエーションの制定や個々の力を最大限活かせることのできる役割や楽しみ事を制定し実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクやショッピング等入所者様に希望をとりながら定期的実施している。又、天候の良い日には町内を散歩し地域の方との関わりも持てる場面作りをおこなっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピング等の買い物行事の際にはご本人様が支払いをおこなえるよう手渡し自ら支払いができる場面作りをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	地方に住んでいる家族様との関わりを持つよう電話をかける事や手紙を書きやり取りをおこなえるようサポートしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節感が味わえる作品等を飾っている。又、光や室温、音の調整に気を付け心地よく過ごせるよう配慮し周辺環境の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ配置を各場所に設けることで仲の良い人同士が気軽に使用し交流がもてるよう家具配置には気を付けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ入居者様をご自宅で使用していた物を居室へ取り入れながら環境を変えないよう家族様、ご本人と相談し実施している。又、家族様の写真等もお部屋に置きながら居心地良い空間作りを実施している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が歩くスペースには危険となるようなものを置かないよう心掛けトイレ等の場所がわかるよう表示をつけ安心して日々の生活を送っていただけるよう実施している。		